

「ポクっ娘爆乳ソープ……？」

街角で見かけたその広告に俺はすぐ電話した。

近場のホテルで待機していると数十分後、

「お電話されて来ました！扉あけてくれる？」

「こんばんはポクはヘステイア。キミを神のおっほいで天国に誘ってやるぜ！」

「辛薄そうな顔してるね！ま、せっかく来てあげたんだしポクに任せてよ！」

「は、はあ……なんで頼んだ俺よりテンション高いんだこの娘……」

「さあーてポクの自慢の爆乳でキミのミスコを神なる愛で包んで……」





びくっ

「うえええええええー!?!」

まぎん

「う、うーん、ボクのじまんのばくにゅうでは
キミの逸物は包めないみたいだね...」
「ちよっとびっくらこいたよ...うん」

「いやなんか...すみません」
「まあそれはいいんだ...
それよりボクのテクニクを見せてあげるよ！くそお！」

ぽふっ



「ほらほらどうだい？こんなパイオリ初めてだろう？」

「すげえ、目の前でハスティアちゃんの
エロチカ乳輪ぶるぶる揺れて興奮する……！」

「うおう……！亀頭ハロハロさ
たぶるとじんわり気持ちいい……！」

「そっだろうそっだろう。亀さんも赤くなって嬉しそうだね♡」



「おちんぽビクビクしてるよ？そろそろイキそうなのかい？」
「くう、ああ……溜まった精子だしちやいますっ！」

たぶ

たぶ

たぶ

「たぶぶぶっかけていいよ」
「ほら、ボクの爆乳パイズリでいっちゃえ」



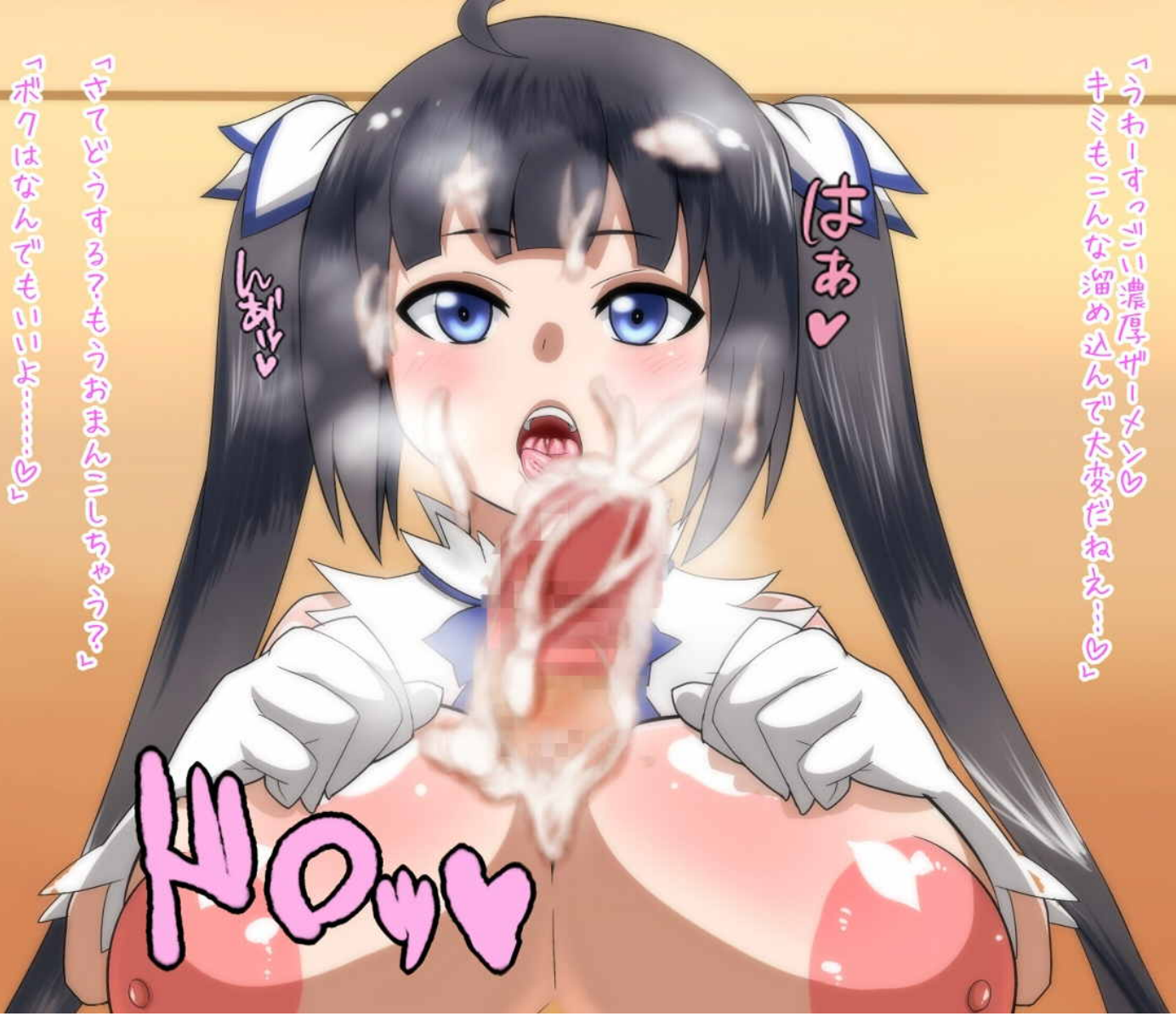


「うわーすっごい濃厚ザーメン♡
キミもこんな溜め込んで大変だねえ……♡」

「さてどうする？もうおまんこしちゃう？」
「ボクはなんでもいいよ……♡」

はあ♡

How♡





「どうだい？ポクの一級品のおまんこは♡」

んっ

んっ

んっ

「くっ、自分で言うんですけど...!!
でも確かにすごく具合がいいです...!!
膣中がうねうね動いて...!!」



「はあっ……くっ！うあぁ」

10/14

10/14

んんん♡

「おやおやそんな夢中になっちゃって……かおいいじやないか♡」



「女の子の身体で一番のやわらかポイントだからねっ♡
爆乳のボクの場合には特に♡」

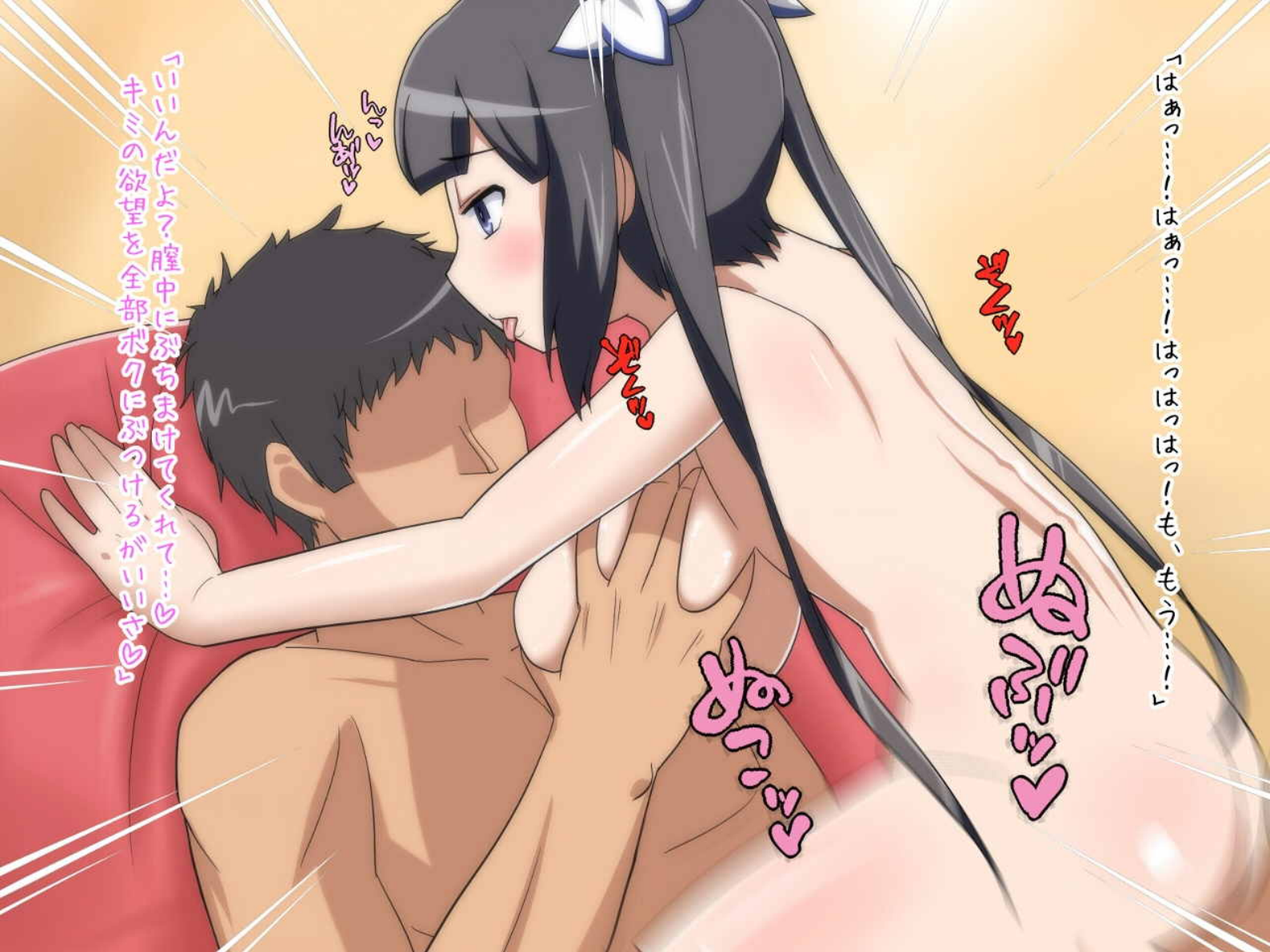
んふっ♡

「こんなもんぶら下げて……くっそ！」
「うおっやわらかっ……！指が沈み込む……！」

もみり
もみり

ハッ
ハッ

ハッ
ハッ



「はあっ……はあっ……はっはっはっ！も、もう……！」

あはは

ぬるる♡

ぬるる♡

あはは

あはは♡

「いいんだよ？ 膣中にぶちまけてくれて……♡
キミの欲望を全部ボクにぶつけるがいい♡」





「あめん♡ニ発目なのにくさんどおやどおやしてくるね♡」
「おまんこから溢れてきちゃうよ♡」

「……ヘステイアちゃんちよつと要望があるんだけど……」

にゅ♡

にゅにゅ♡

にゅ♡

にゅ♡



「ま...なんでもいいけどさ...んっ♡」

「...なぜキミはこんなスケベな道具を用意しているんだい？」

アイテム

むち♡

ぬい♡

むち♡

「んんんんんこの体勢だと深く入ってくる……♡」

「はあ……！目の前でおっぱいが踊ってる……！」



「ボクのおっぱいぶるんぶるんしてるのがそんなに楽しいのかい？」
「男の人はいくつになっても変わらないものだね……♡」



「んあっ♡キミのガンガン勃起おちんぽとボクのおまんこのラブラブキスいい♡♡♡」

「やっぱり相性ばっちりみたいだね♡♡はあ♡♡」

「ヘステイアちゃんのエロ水着似合いすぎる…
こんなの勃起収まらない…!」

あはれ

あはれ

♡♡♡

♡♡♡

「あんなっあんなっ♡はあんなストロークはげしい♡
ボクのおまんこニの形がキミ専用のちんぼケースになっちゃう♡♡

♡♡♡

「キミのザーメン欲しがっちゃう♡ほお♡
ボクのおまんこニザーメン欲しくてくぼくほしちゃうよ♡♡

♡♡♡

♡♡♡

「俺ももう限界…ヘステイアちゃんの膣内にでるう…!」





「おおおおおん♡♡あああ♡♡」

あ

ヒキキ

ヒキキ



「はあ、はあ………すげえ搾り取られた…」

「はっ♡はっ♡すっ♡い量出すねキミはホントに……♡
「ボクとしたことが気をやられてしまったよ……♡
「ひどいおちゃんぽだっ♡♡」

♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡